

# こもれび・komorebi・木もれ日

総合建設  
株式会社 日向建設 ひゅうが せつ  
〒247-0061 神奈川県鎌倉市 1-10-4  
http://hyuuga.co.jp どこまでが夢ですか  
TEL 0467 (47) 5454 FAX 0467 (44) 0303

## 新年あけましておめでとうございます。

平成16年も暖かく気持ちの良い天候で始まりました。明るい兆しが見えてきそうな気配が感じられますが、気を引き締めて邁進していこうと思っています。

日向建設の家づくりは、全室24時間快適暖房です。家は住むもの・住まうもの、他人の評価ではありません。そこに住む人が快適でなければ『家』という本当の目的を達してはいないでしょう。自然素材を使って100年住宅を提案します。少しずつ、理想の住まいに近づけていきましょう。

## 横浜市青葉区 H邸 が完成しました！

### H邸の施工ポイントをご紹介します

◎地盤改良工事をして、耐圧盤を250mmにしました。

◎外壁通気を採用。  
壁の中を空気が通るので、夏の暑さが部屋の中に伝わりません。

◎断熱工事にはセルロース断熱材を使用。  
材料は古新聞。防火用に添加されるホウ酸系薬品は、カビやゴキブリなどの虫を寄せつけません。調湿・防音効果もあります。

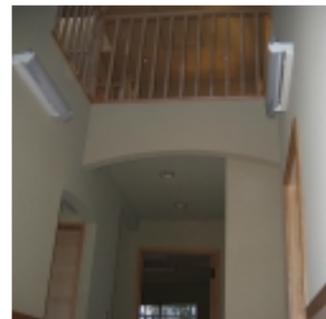
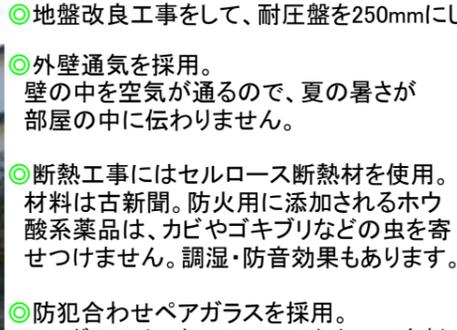
◎防犯合わせペアガラスを採用。  
このガラスは、大ハンマーでたたいても割れないほど丈夫です。

◎全室24時間快適暖房。建坪50坪の家を暖めるのに灯油ボイラー使用で、月の燃料代約一万円程度です。室温のバリアフリーになるため、結露が出来ません。この快適さを是非体験して欲しいと思います。

◎階段・棚板・腰板は、国産タモ。床は、レッドパイン材。『スウェーデンレッドパイン』という木材。北欧スウェーデンでは、100年もつ家が当たり前です。木が生活に密着して、愛着をもって使われています。木の暖かさが自然と伝わってきますね。

◎木の部分は、すべて柿渋塗装仕上げ。柿渋は塗ってすぐには、色が変わりません。年月が経つにつれて、深みのある色合いに変化していきます。  
◎白アリ予防に竹酢液・木酢液を使用。  
◎和室の柱は、すべて芯持ち檜の無節。梓廻り・大黒柱は、ピーラーを使用。

『自然素材』は仕上げ塗料をはじめ、至る所にふんだんに使いました。見えるところのデザインの良さはもちろん、家の骨格となる部分をしっかりと作り、快適に暮らすための工夫をたくさん取り入れました。住み続けていくうちに、『自然住宅』の気持ち良さが実感できると思います。



▲吹き抜けのある玄関。



▲明るいキッチン。



▲居心地の良いリビング。



▲木のぬくもりが感じられる廊下。



▲落ち着いた雰囲気のと室。

2004年日向建設では  
**トトロの住む家** をテーマに 「家づくり」 を  
考えていきたいと思ひます



## 昭和初期の、昔ながらの趣ある家。 トトロが住みつきたくなるような家づくり。

宮崎駿監督の最高傑作アニメ「となりのトトロ」。豊かな日本の自然と、それに畏敬の念を持って自然とともに暮らす生き方を考えさせてくれる作品です。トトロは、豊かな森に住む、森の妖精（森のおばけ）です。そのトトロが喜んで住みそつな家。

「昔ながらの趣きはそのまに、快適な住環境で暮らせる家」  
「自然とともに暮らす家」  
「住む人が、代々、住み継いでいける家」

これが日向建設が考える「トトロの住む家」です。



▲古い家には、独特の趣きがあります。私たちがこうした家に心惹かれてしまうのはきつと、住む人の心が偲ばれる懐かしい家だからでしょう。

鎌倉・藤沢あたりには、まだまだ昭和初期の家がたくさん残っています。何もせずに放っておくといずれは老朽化してしまひますが、きちんと手入れをすれば、長く住める家になります。木の家は、住めばすむほど木の風合いが出てきます。また、長い年月を経てその土地にある家には、言葉で言ひ表せない魅力があります。

家を新しく買う方・住み替える方は、是非木造住宅を考えて下さい。また、マンションなどの集合住宅でも暮らし方を見直すだけで、居心地の良い環境をつくる事が出来ます。

## 『良い家は、良い人を育てる』

「家」は建てたらそれで終わるものではなく、むしろ、住む人がつくっていくものだと思います。壊れたから買い替えるのではなく、大切に住み、傷んだり壊れたりした所を直し、できれば100年でも200年でも住み続けられる家をつくるようにしたいものです。しかし、「良い家」でも寒ければ困ります。改装するときに、全室暖房の太陽のぬくもりを感じる家に生まれ変わらせてください。このような家づくりを日向建設がお手伝いできたら、といつも思っています。

皆様と一緒に『快適な家づくり』をさせて頂くとき、建築家としての喜びを感じます。『家』という本質を考え、心とからだに自然にやさしい家づくりをめざしていきましょう。

(参考: 「トトロの住む家」/宮崎駿・著/朝日新聞社)

## 知っ得まめ知識 ～お正月の3つのお話～

### 注連縄(しめなわ)のルーツは?

注連縄(七五三縄)は、一般に神域、神木など神聖な場所やものへ、人がみだりに立ち入ったり触れたりしないように張られています。そのルーツは『天岩戸神話』で、岩戸から出てきた天照大神(あまてらすおおみかみ)が再び隠れないようにと、岩戸の入り口にアメノフトタマ神が張ったシルクメ縄がはじまりとされているとか。

私達がお正月に飾る注連縄(しめなわ)には、外から入ってくる災厄や悪霊を防ぐという意味があるそうです。

### どうして「鏡開き」というの?

お正月のお餅はなぜ「鏡餅(かがみもち)」と呼ぶのでしょ

「鏡開き」は、もともと新年の仕事・行事初めの儀式的のひとつ。お供えしていた『鏡餅』を木槌で叩き割る「鏡開き」は、もともと武士の風習でした。武士(男性)が、具足(鎧や兜)にお供えした餅は「具足餅(ぐそくもち)」、女性が鏡台にお供えした餅は「鏡餅」と呼ばれておりました。武士達は、刃物で「切る」という言葉を嫌い、叩いてお餅を割ったそうです。でも、おめでたい席では「割る」も縁起が悪いため、「運を開く」にかけて「鏡開き」と呼ぶようになりました。「鏡」は円満を「開く」は末広がりを意味するそうです。

### 今年さる年。でも「絵馬(えま)」はどうして「馬」なの?

日本では古くから、『馬』は神さまの乗り物とされてきました。お祭りや祈願のときには、神馬(じんめ)といって、生きた馬を神様に奉納する風習があったそうです。

でも、いつも生きた馬を奉納するわけにはいきませんよね。そこで、生きた馬の代わりとして、板に「馬の絵」描いて、それを奉納するようになったそうです。それが絵馬の起源とされています。

絵馬が一般大衆に広まったのは、鎌倉時代以後のこと。その頃から、馬の絵の他にもさまざまな動物も描かれるようになりました。

